

大岡昇平 おおおかしょうへい

この文章で作者は、傷病兵となり孤立した「私」の行動と心理、自身の殺人という行為への考察を描こうとしている。本文を読み直しながら、空欄に入る適切な言葉を補ってみよう。

私の心理

（教会に忍び込んで長椅子に横になる。）

- 目をさまし、内火艇の音を聞き、また眠る。
二人の男女の歌声が聞こえ、二人は笑いな
がら駆けてくる。
裏の戸が開く。台所で音を立てている。
音を立て、銃で扉を開け、彼らの前に出る。
「パイゲ・コ・ポスボロ（^{マツチ}燐寸をくれ）」という。
女が、獣の叫び声をあげ、私を見続ける。
女を射ち、胸に当たる。男は後ずさる。
その⁵ に駆られて、射ったけれども、
装填を忘れ、弾は出なかった。
男を追って外に出て、いい加減に発射し、
笑って、引き返した。
女の屍体の、息が口から洩れる音を、その
音がやむまで聞いた。
台所の床下に、塩を見つける。
- 長く、
恋人たちが、この死の村をあいびぎの場所に
選んだのだ、と² する。
彼らが私のいる室へ入ってくる。³
があると思う。
⁴ の衝動。
私をこの行為に導いた運命が誤っているにせ
よ、私の心が誤っているにせよ、事実において
私が一個の暴兵に過ぎないのを、私は納得する
神ばかりではない、人とも交わることができ
ない体である。

この文章の中で使われていた次の言葉を使って短文を作ってみよう。

歯ぎしり (二八〇・上5)

余韻（二八一・下4）

日常茶飯事（二八二・上21）

循環 (二八二・下20)

銃

・ 雑^{ぞう}糞^ふに塩を詰め、その家を出る。

・ 月空の下を、犬の声に追われて歩く。

・ 私が殺した女の眼、鼻、腕、などの姿態詳細が、頭を離れない。

・ 橋の欄^{てすり}に腰を下ろし、流れる水に見入る。

・ 〈橋の上での考察〉水が繰り返す運動が自然の中にあるように、人生の中にもあるべき循環の中に、私の行為はなかった。女を殺したことは

が循環からはずれたためだとすれば、責任は私にある。

〈橋の上での了解〉黒く光る銃に嘔吐^{はきけ}を感じる。あのとき銃がなければ、女は逃げ去るだけ

ですんだ。

が強い銃によって、私は国家に有用、

なり、敗兵となった後、それを持ち続けたことで、無辜^{むこ}の人が死んだ。

銃を水に投げた。

私は

したが、諦^{あきら}めていた。

私は生きねばならぬ。私自身の足取りがよく見えた。私は何者かに操られているように思った。

主題

この作品で作者はどのようなことを描こうとしたと思われるか、次のことに着目して、百字程度でまとめてみよう。

〈着目点…女を撃ち殺したことへの「私」の考察〉

発展

次の中で興味を持った事項について、図書館の書籍やインターネットなどを使って調べてみよう。

・ フィリピンで教会の果たしている役割は、どのようなものか。

・ 人間にとって、塩とはどのようなものか。

・ 兵士にとって、銃とはどのようなものか。

100